2013年度決算説明

2014年5月23日

鬼怒川ゴム工業株式会社

KINUGAWA

1. 2013年度決算の状況

2. 2013年度の主な活動

3. 2014年度の主な取組み

2013年度 決算のポイント

■ 前年同期比で増収増益

■ 売上高

2013年度の連結売上高は増収

地域別には、米州・アジアで増収、国内は減収

米州　;欧米系カーメーカーへの受注車種増加
既存メーカーへのグローバル戦略車受注拡大

アジア;中国での欧米・中国系自動車メーカーへの拡販
アセアンでの日系グループからの新車種受注

■ 利益

拡販に伴う増業度の増加、部品輸送コストの改善、グループ間技術支援によるモノ造り改善活動の実施等により増益

KINUGAWA

2013年度 決算概要

■ 増収増益（売上；113%、当期純利益；118%　対前年同期）

（単位：億円/未満四捨五入）

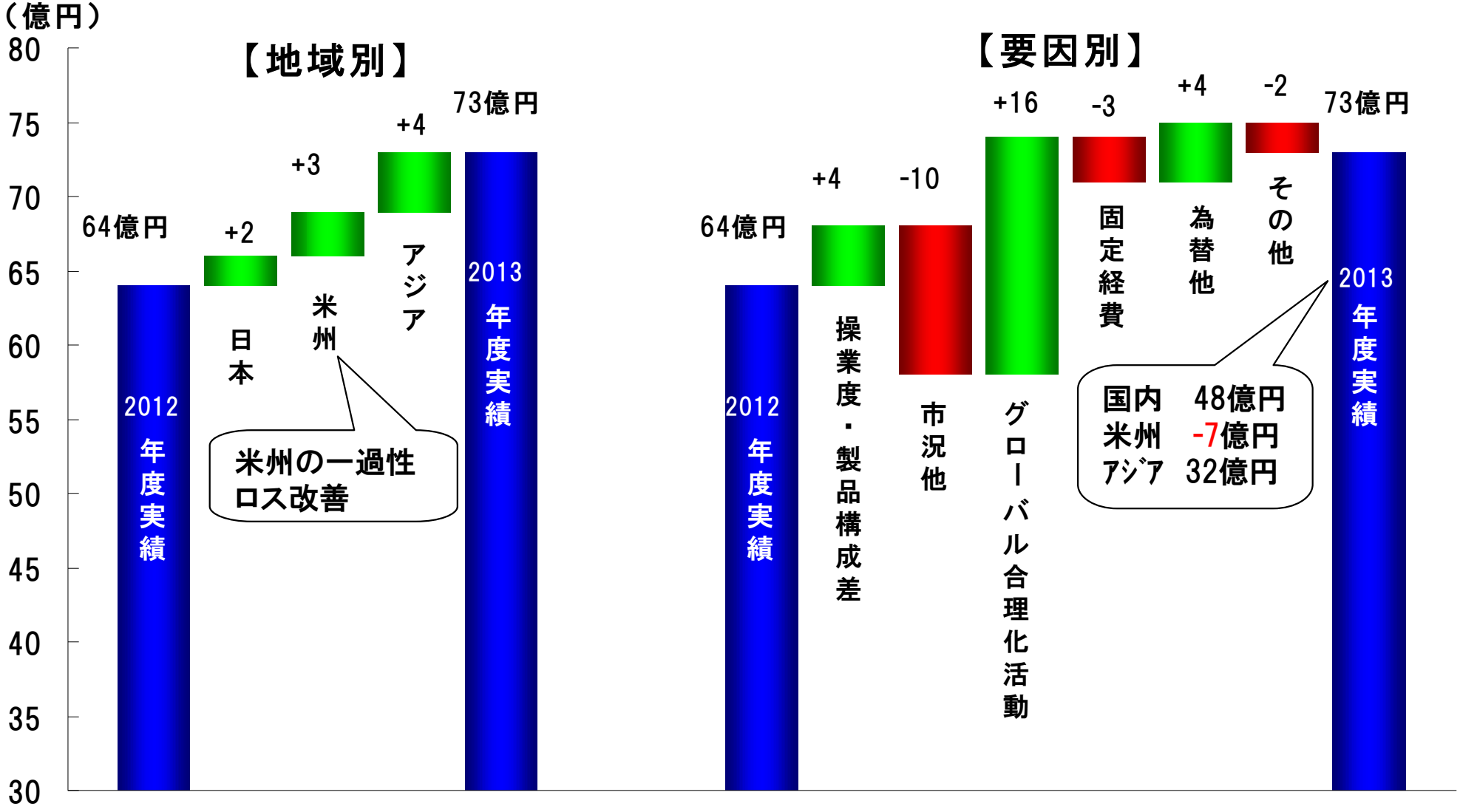
	2012年度	2013年度	
売 上 高	662.2	745.4	(113%)
営業利益	63.8	72.9	(114%)
率	9.6%	9.8%	
経常利益	70.5	80.8	(115%)
率	10.6%	10.8%	
当期利益	39.8	46.9	(118%)
総 資 産	490.7	610.4	(124%)
自己資本	255.2	305.2	(120%)
率	52.0%	50.0%	
借入金残	69.1	85.3	
DEレシオ	0.3	0.3	

（ ）内は前期との比率

KINUGAWA

営業利益変動要因（地域別・要因別）

■ 新規拠点の一過性ロス改善やグローバル合理化活動（モノ造り改善、調達資材の現地化他）により増益となった

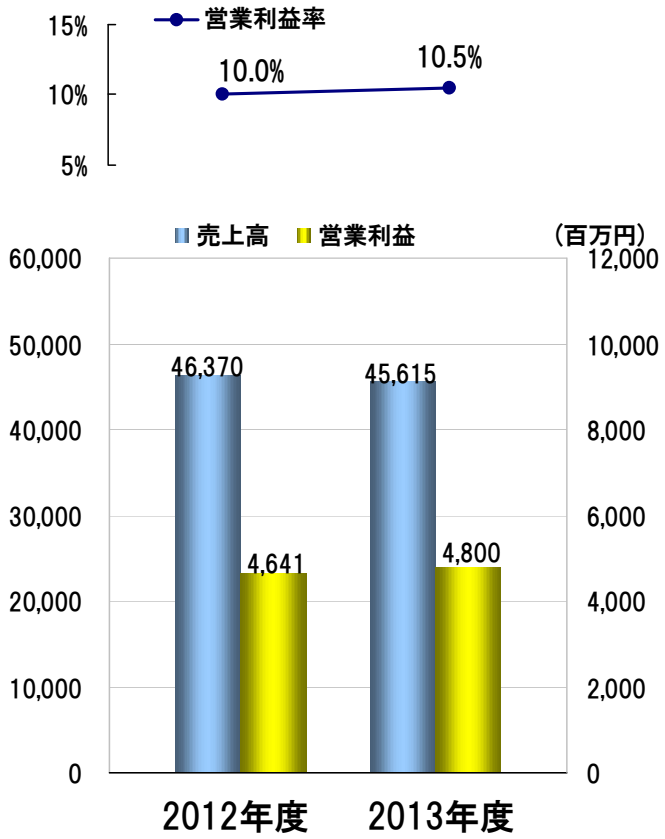


KINUGAWA

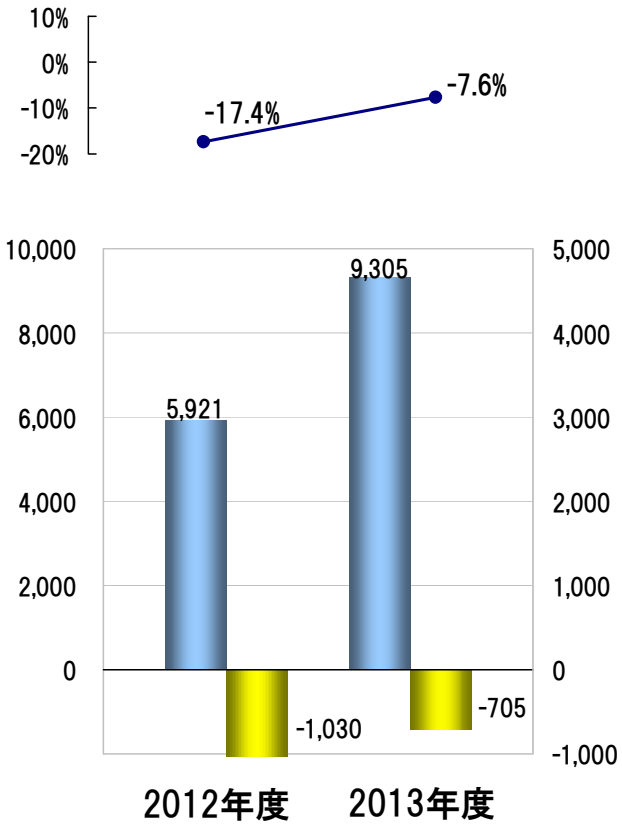
所在地別の状況

- 日　本；操業度は減少したが構造改革や資材調達コスト削減の合理化により減収増益となった
- 米　州；受注の増加による新工場立上げ費用等が発生したが米州での改善活動の効果により収益は改善した
- アジア；中国既存拠点でのモノ造り改善と中国、アセアン地区拡販による操業度増加により増収増益となった

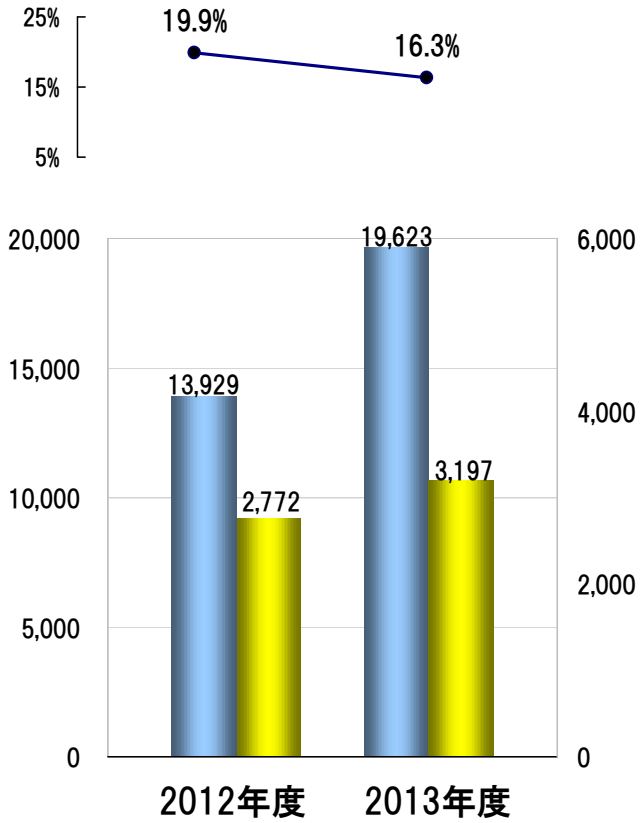
日本



米州



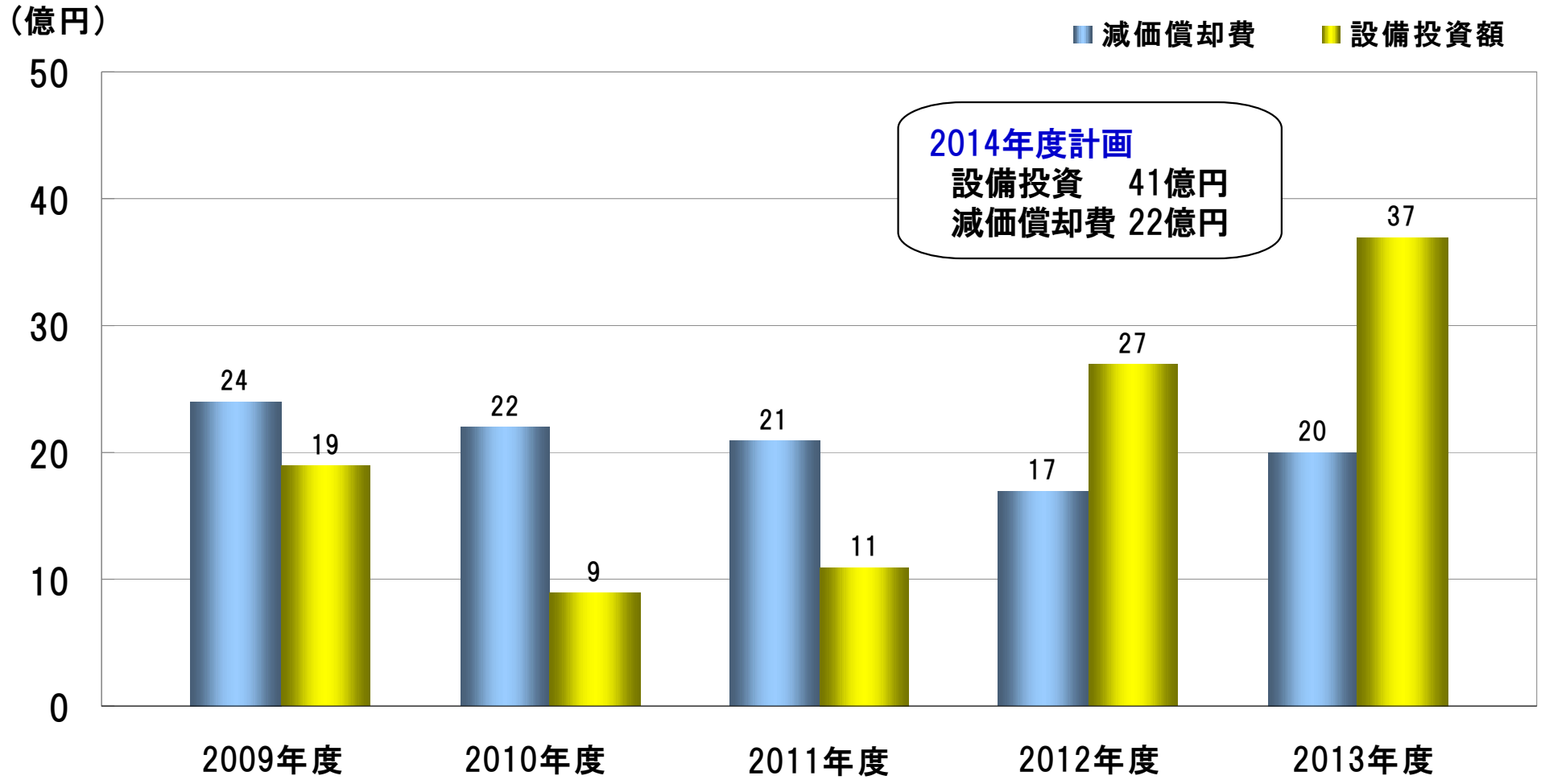
アジア



KINUGAWA

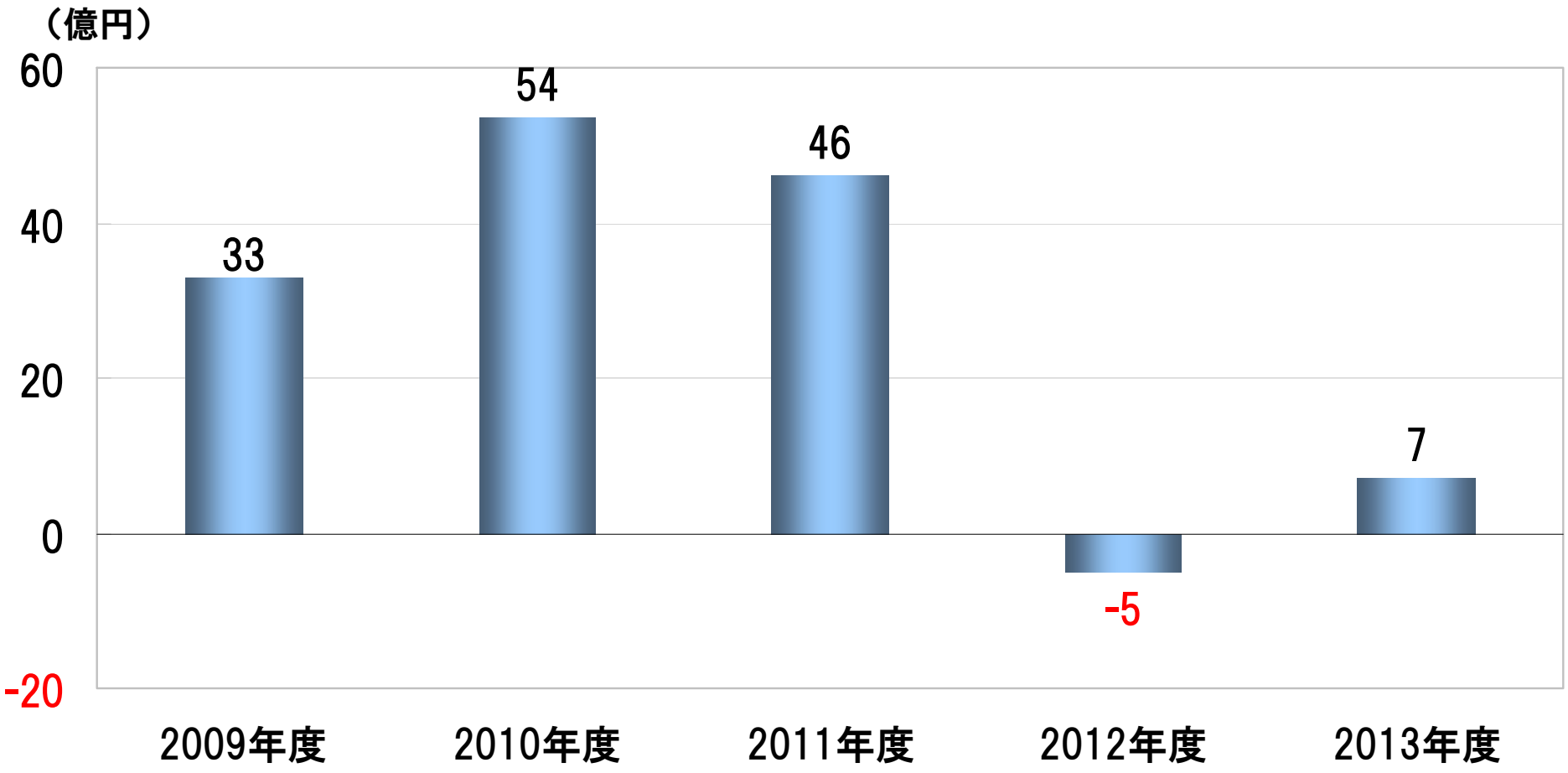
減価償却費・設備投資推移

- 海外拠点拡大のため、米州・アジア拠点を中心に37億円の投資を実施
- 減価償却費抑制のため、段階投資・設備の現地調達化・設備稼働率改善による現有設備能力の向上を実施した



フリーキャッシュフロー推移

■ 新規生産拠点の拡大と設備投資などによりキャッシュフローは減少傾向だが、設備の現地調達化、国内設備の活用等により効率的な投資を行い、2013年度末時点でフリーキャッシュフローは+7億円となった



1. 2013年度決算の状況

2. 2013年度の主な活動

3. 2014年度の主な取組み

2013年度の主な活動

- JPX日経インデックス400に当社採用
- IR活動の推進～個人投資家の皆様向けの会社説明会の開催
- 倉庫の削減と納入リードタイム短縮（羽鳥倉庫の閉鎖など）

JPX日経インデックス400構成銘柄（平成26年1月6日時点）

平成25年11月6日公表

構成銘柄数：400銘柄

（注1） 銘柄数は、上場廃止等に伴い、今後変動する可能性があります。

（注2） 各銘柄のキャップ調整後浮動株比率につきましては、決定次第公表します。

（注3） 市場区分の表記については、市場第一部=1、市場第二部=2、マザーズ=M、JASDAQ=Jとしております。

コード	市場区分	銘柄名	コード	市場区分	銘柄名
1417	1	ミライト・ホールディングス	3765	J	ガンホー・オンライン・エンターテイメント
1605	1	国際石油開発帝石	3774	1	インターネットイニシアティブ
1721	1	コムシスホールディングス	3861	1	王子ホールディングス
1722	1	ミサワホーム	3941	1	レンゴー
5101	1	横浜ゴム	6869	1	シスメックス
5105	1	東洋ゴム工業	6902	1	デンソー
5108	1	ブリヂストン	6923	1	スタンレー電気
5110	1	住友ゴム工業	6954	1	ファナック
5196	1	鬼怒川ゴム工業	6965	1	浜松ホトニクス
5201	1	旭硝子	6971	1	京セラ
5214	1	日本電気硝子	6981	1	村田製作所
5233	1	太平洋セメント	6988	1	日東電工
5332	1	TOTO	7004	1	日立造船
5334	1	日本特殊陶業	7011	1	三菱重工業
5393	1	ニチアス	7012	1	川崎重工業
5401	1	新日鐵住金	7013	1	IHI
5411	1	ジェイエフイーホールディングス	7201	1	日産自動車
5471	1	大同特殊鋼	7202	1	いすゞ自動車
5486	1	日立金属	7203	1	トヨタ自動車
5631	1	日本製鋼所	7205	1	日野自動車
5706	1	三井金属鉱業	7211	1	
5711	1	三菱マテリアル	7240	1	
5713	1	住友金属鉱山	7242	1	
5714	1	DOWAホールディングス	7245	1	
5802	1	住友電気工業	7246	1	

Copyright © 2013- by Japan Exchange Group, Inc., Tokyo Stock Exchange, In

JPX日経インデックス400 採用
（2013年）

ＩＲ：会社説明会開催
（2013年 7月・12月）

倉庫の削減と納入
リードタイム短縮
（羽鳥倉庫：2013年）

グローバル展開 ①ブラジル拠点生産開始

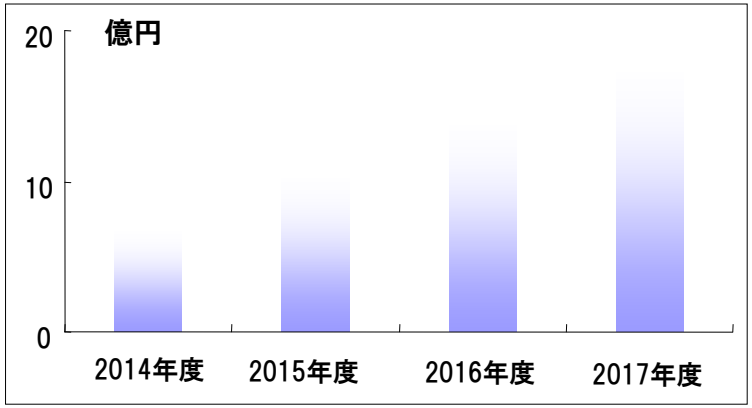
■ キヌガワブラジル (KINUGAWA BRASIL Ltda.)

リオ・デ・ジャネイロ州レゼンデ市；米州3番目の生産拠点

拠点概要

売上高；	約14億円(2016年見込み)
従業員；	100名程度
投資額；	約10億円(予定)
工場敷地；	約15,000㎡
建屋面積；	約 5,000㎡
主要得意先；	日産, VW
市場規模；	345万台 (2013年実績)

売上計画



拠点地図

主要顧客の生産拡大(20万台水準)に合わせて、材料、購入部品の徹底的な現地化を行い競争力を向上させるとともに欧米系メーカーへの販売拡大を目指す

KINUGAWA

グローバル展開 ②ロシア拠点生産開始

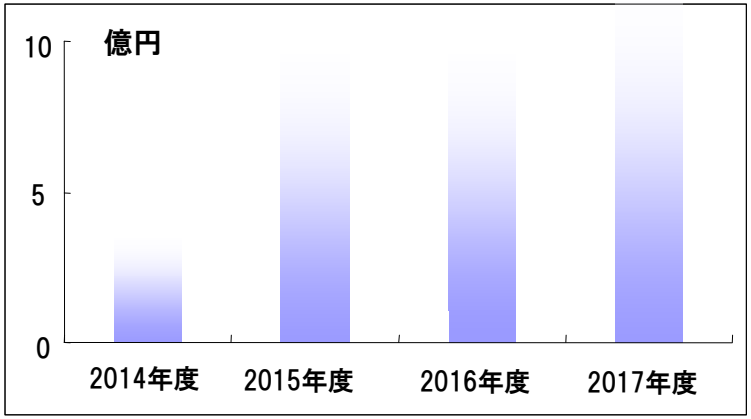
■ キヌガワロシア (LLC. KINUGAWA RUS)

ウドムルト共和国イジェフスク市；ロシア1番目の生産拠点

拠点概要

売上高	約10億円(2016年見込み)
従業員	40名程度
投資額	約2億円(予定)
建屋面積	約1,500㎡
主要得意先	日産
市場規模；	261万台 (2013年実績)

売上計画



拠点地図

今後更なる市場拡大が見込まれるロシア市場に日系メーカーとして先行進出。主要顧客グループに加えて現地メーカーとの連携や生産設備の拡充により取引顧客の拡大を狙う

KINUGAWA

グローバル展開 ③メキシコ拠点拡大

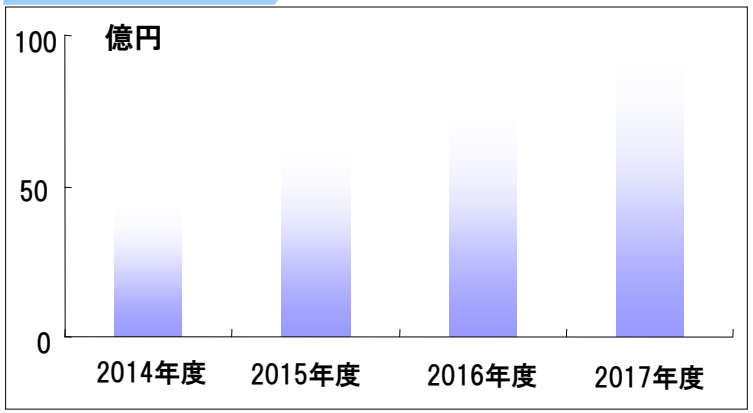
■ キヌガワメキシコ (KINUGAWA MEXICO,SA.SE C.V.)

グラナファナト州イラプアト市；米州最大規模の生産拠点に拡大

拠点概要

売上高；	約60億円(2016年見込み)
従業員；	450名程度
投資額；	約20億円(予定)
敷地面積；	約74,000㎡
建屋面積；	約20,000㎡
主要得意先；	日産,VW, マツダ,ホンダ
市場規模；	307万台（2013年実績）

売上計画



拠点地図

近隣の主要都市/取引顧客

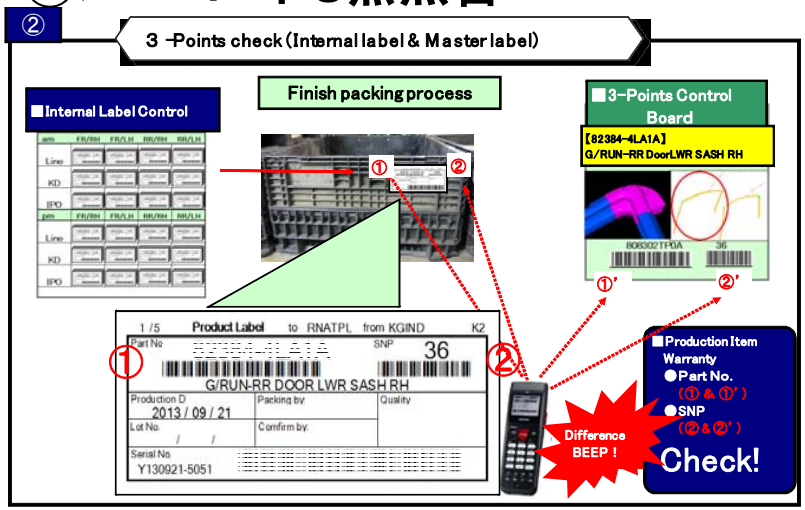
資材、金具の現地化のコスト競争力向上により近隣カーメーカーへの売上拡大を図るとともに輸送効率が高い部品についてはアメリカへのLCC拠点として販売拡大を目指す

KINUGAWA

モノ造り力の強化 – 管理手法のグローバル展開

■ 標準化、基準化、現地語化された手順書によるスキル向上を実施中

①バーコード3点照合



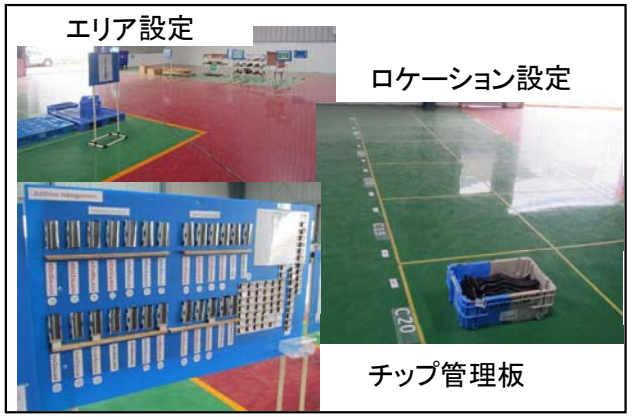
②デリバリー会議

③現場管理教育

④設備管理の実践

⑤生産指示版による生産進捗

⑥在庫管理(チップ管理)



⑦流出防止(ポカヨケ)

KINUGAWA

1. 2013年度決算の状況

2. 2013年度の主な活動

3. 2014年度の主な取組み

中期経営計画の達成状況

Kinugawa Challenge 2015

2015年度目標（売上高・営業利益(率)）

売　上　高；1,000億円以上
営業利益額；　120億円以上
営業利益率；　12%

■ 売上高の達成状況

- 外部環境の変化（お客様の生産計画見直し他）を受けて1年～2年遅れで1,000億円達成を見込む

■ 利益の達成状況

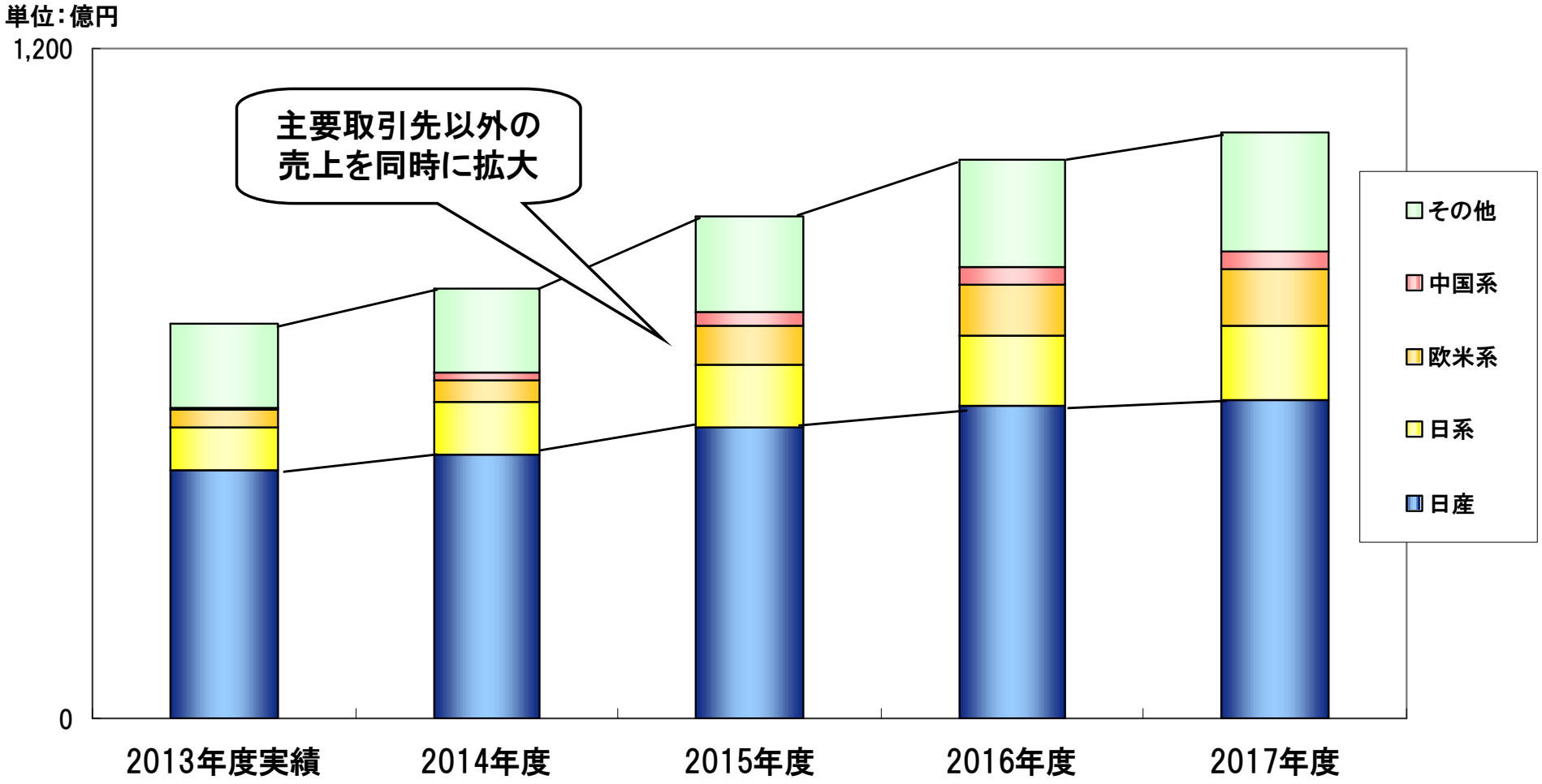
- 日本では操業度を微減にとどめて構造改革により利益を確保
- 米州では拠点運営の安定化による財務体質の改善により収益回復
- アジアでは操業度の上昇による利益率向上

営業利益率12%達成を目標とし、引き続き売上高達成を目指す

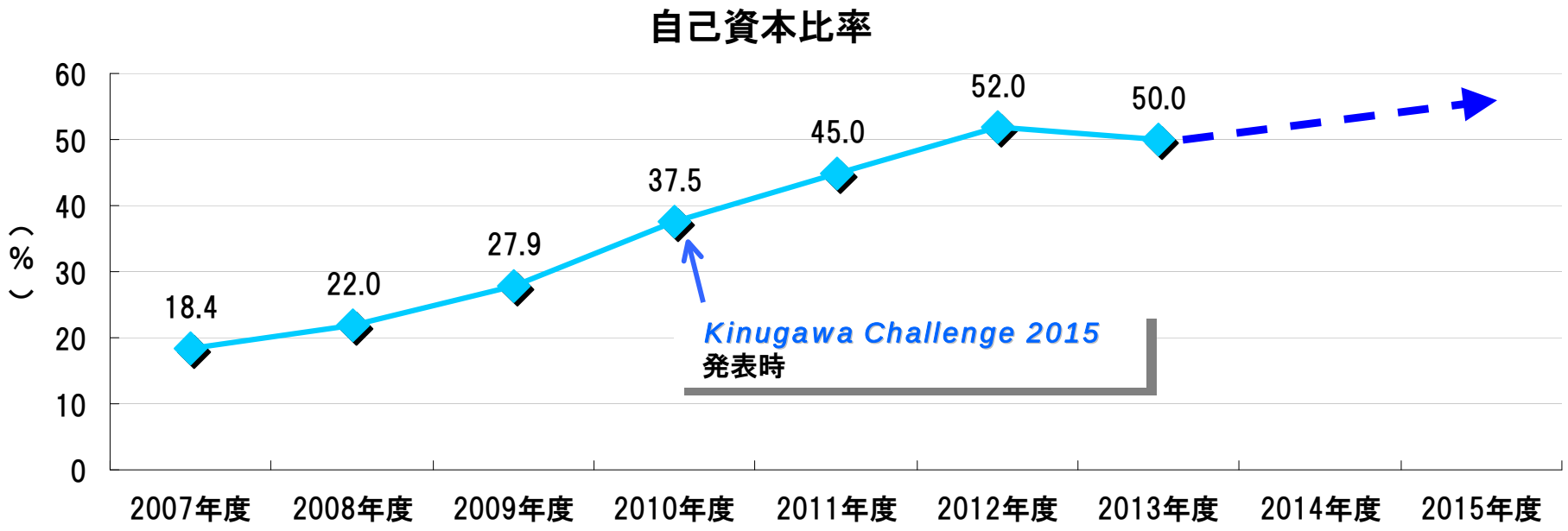
KINUGAWA

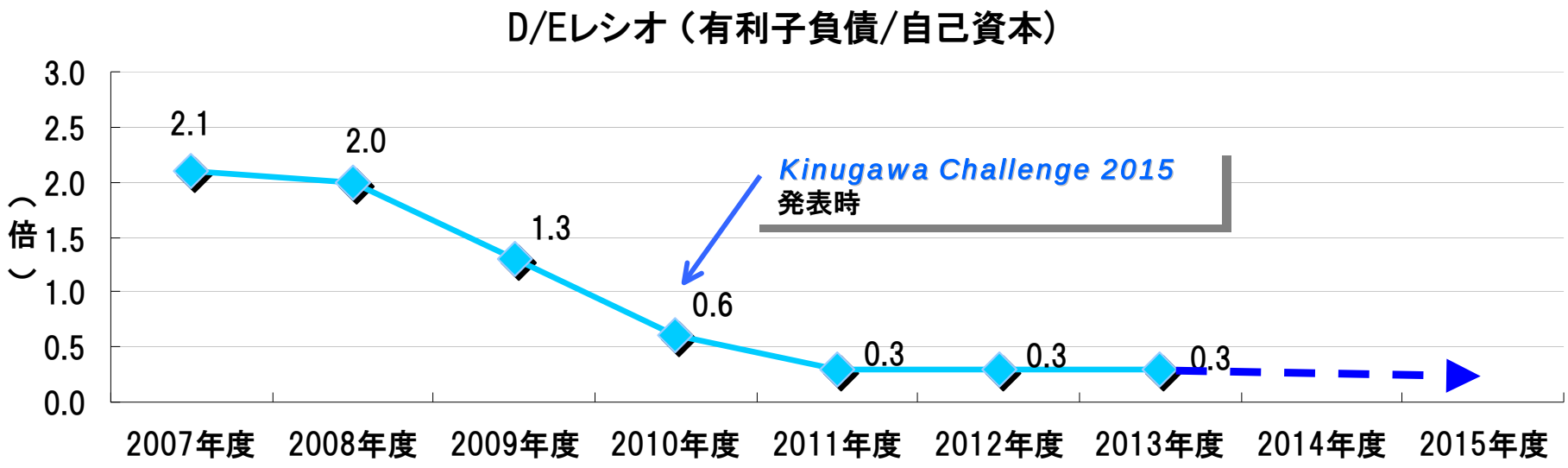
拡販活動の達成状況

■ 欧米系・日系・中国民族系メーカー取引先への拡販活動により日産の売上は拡大しながら、他メーカーのシェアを伸ばし、売上高1,000億円達成を目指す



主要KPIの達成状況


自己資本比率
60
50
40
30
20
10
0
（%）
18.4
22.0
27.9
37.5
45.0
52.0
50.0
Kinugawa Challenge 2015
発表時
2007年度
2008年度
2009年度
2010年度
2011年度
2012年度
2013年度
2014年度
2015年度


D/Eレシオ（有利子負債/自己資本）
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
（倍）
2.1
2.0
1.3
0.6
0.3
0.3
0.3
Kinugawa Challenge 2015
発表時
2007年度
2008年度
2009年度
2010年度
2011年度
2012年度
2013年度
2014年度
2015年度

2014年度の経営環境

1. 国内

- 消費税の駆け込み需要に対する反動が見込まれるが、景気は緩やかな回復基調になると予想
- 主要顧客の自動車生産は円安による輸出の回復が見込まれるが、減少となる見込み

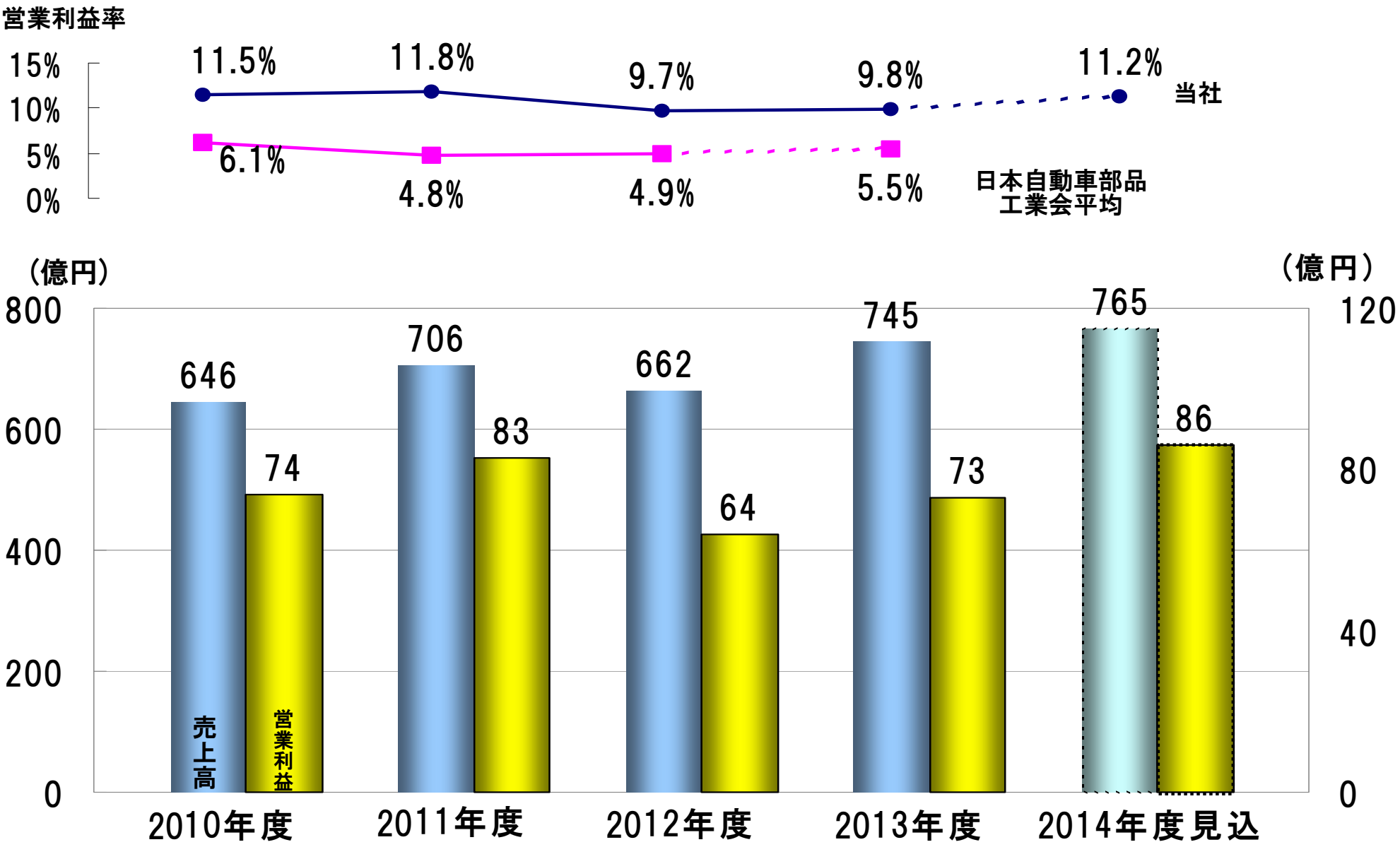
2. 米州

- 米国の経済は回復が続き、メキシコ等も堅調と見込まれる
- 主要顧客の自動車生産は新車の投入により増加。メキシコではカーメーカーの進出が相次いだことにより、急拡大する見込み

3. アジア

- 中国やタイで政治・経済の不安はあるものの、中国の経済はほぼ昨年並み、アセアン諸国は順調に伸びると予測される
- 中国での主要顧客の生産は回復し、他のアセアン拠点も含めた拡販先の生産も増加が見込まれる

2014年度 連結業績予想



参照：日本自動車部品工業会資料より抜粋

KINUGAWA

業績見通し

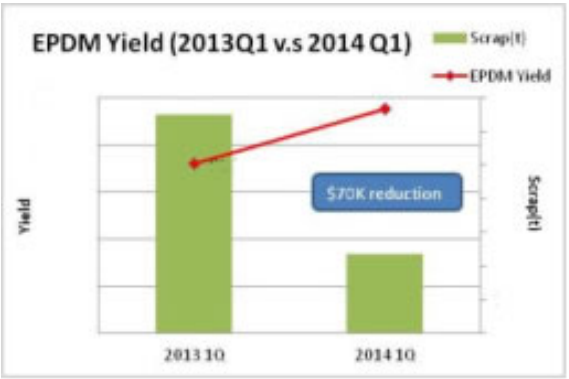
1. 売上高；米州・アジア地域の拡販による受注の増加と、自動車生産の増加により増収を見込む
2. 利益；売上の増加による操業度の上昇、原材料の現地調達や歩留り向上、VE・VAによる製品仕様の改善などにより増益を見込む
3. 地域別業績
   - 日本；売上高は減少するが、生産性の向上や材料コストの削減等に取り組み利益を維持
   - 米州；売上高の増加に伴う操業度の上昇に加え、原材料の現地調達や歩留り向上等により大幅に利益改善の見通し
   - アジア；自動車生産台数の増加や原材料の現地調達等により増収増益となる見込み
4. 想定為替レート
   - 米ドル100円

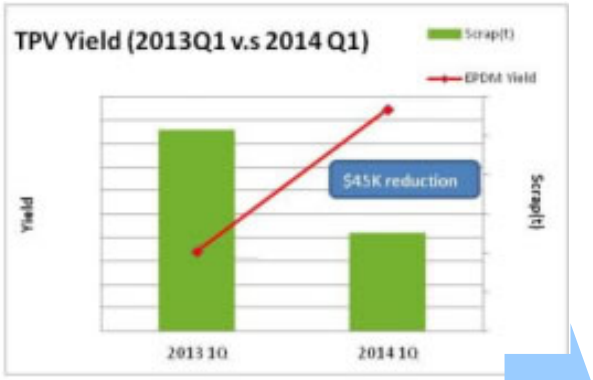
KINUGAWA

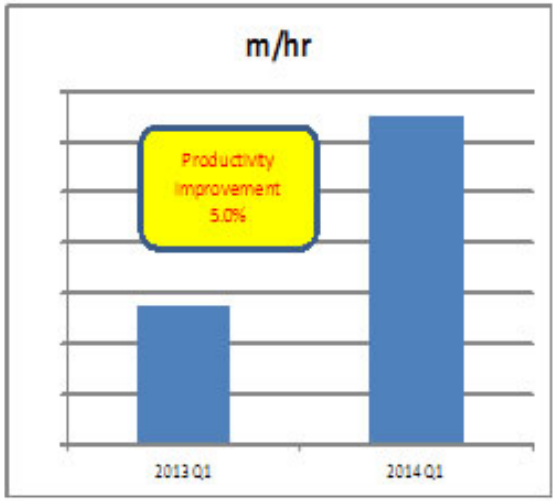
米州事業の収益見通し

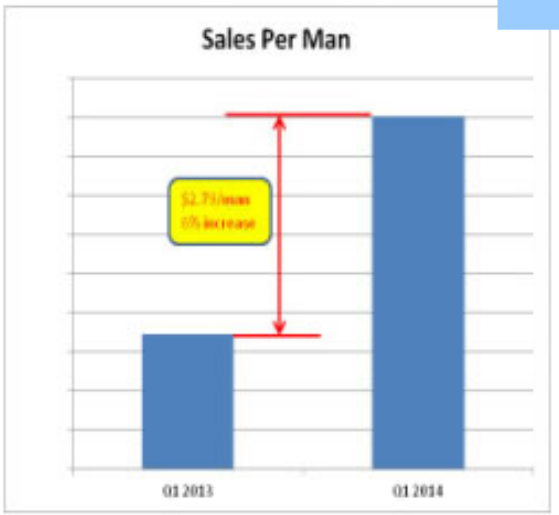
- 現地スタッフ主導の主要KPI改善活動により、2014年度は大幅に収益改善の見通し

収益回復に向けた活動状況



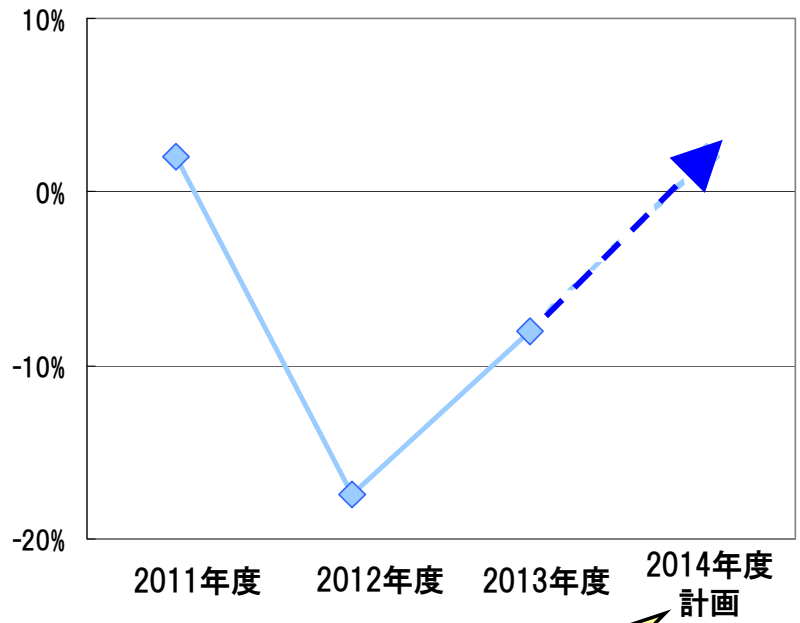






参照：アメリカ(TEPRO)での改善状況

2014年度収益見通し



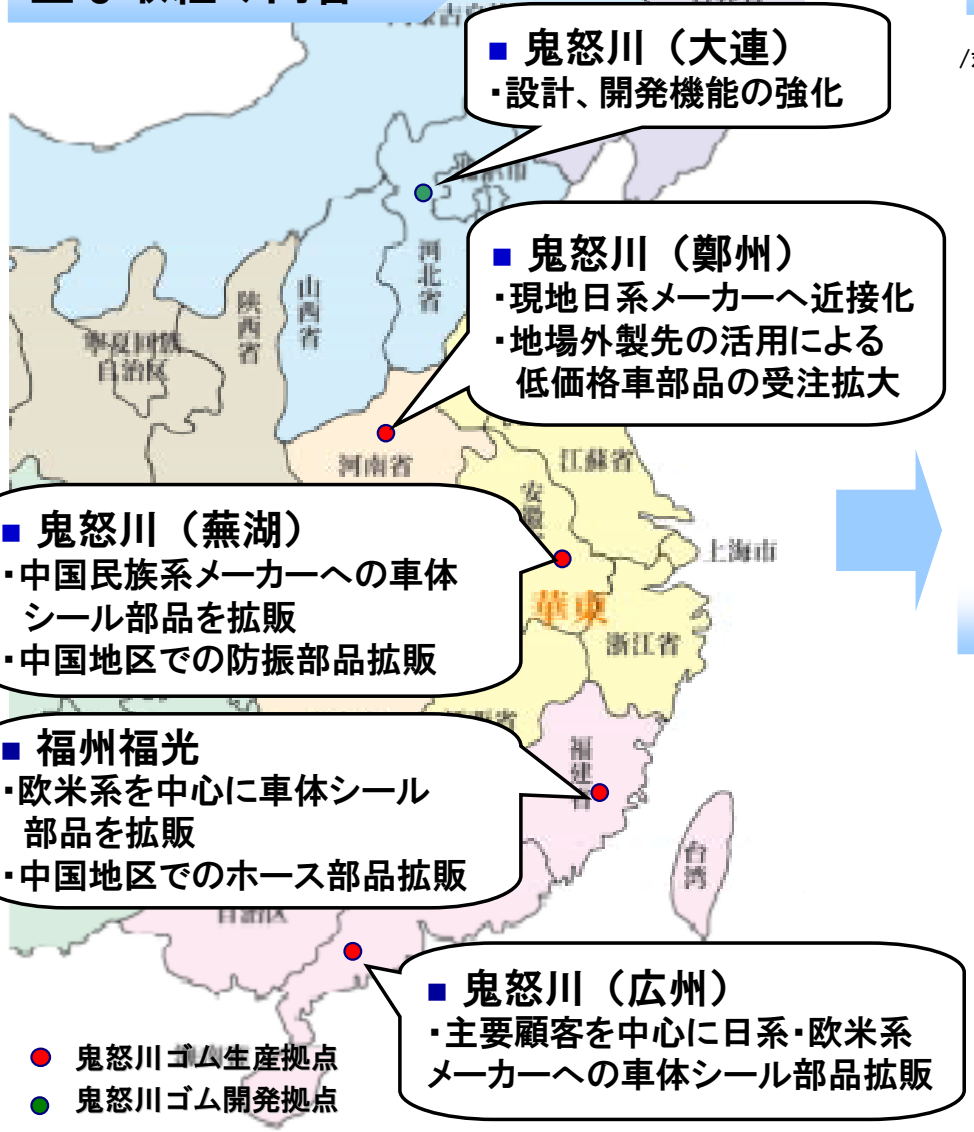
アメリカ(TEPRO),
メキシコ(KGM) ともに
収益改善中

KINUGAWA

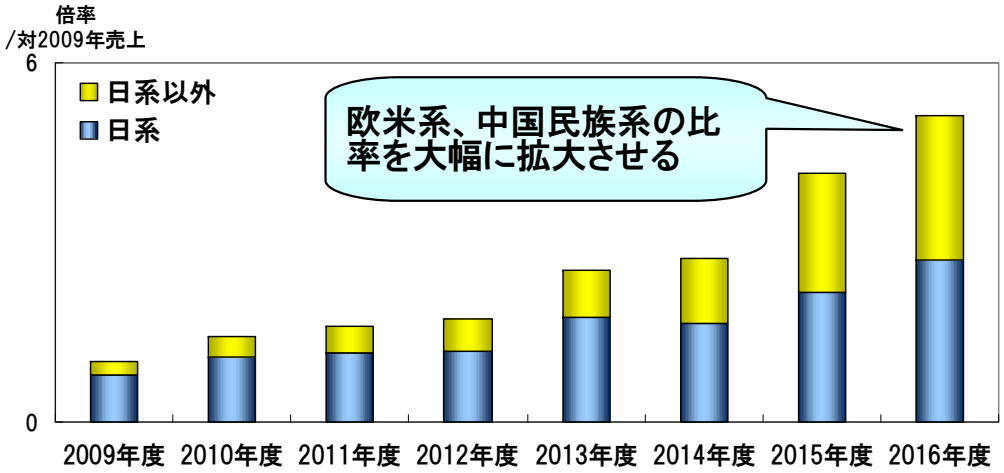
地域戦略 – 中国拡販活動

■ 中国地区での商品ラインナップを拡充するとともに車体シールでは売上No.1を目指す

主な取組み内容



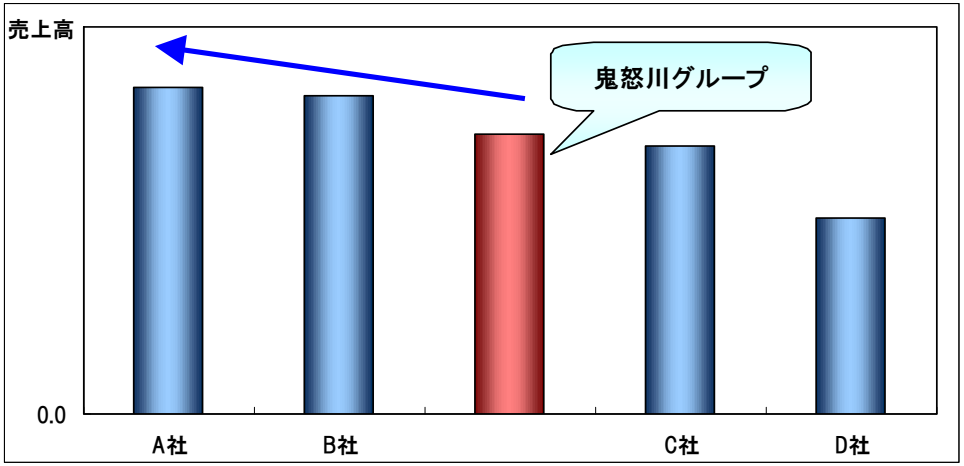
中国売上計画(顧客別)



＋

車体シール売上No.1を目指す

※2012年売上高



KINUGAWA

地域戦略 – 日本での新規拡販の推進

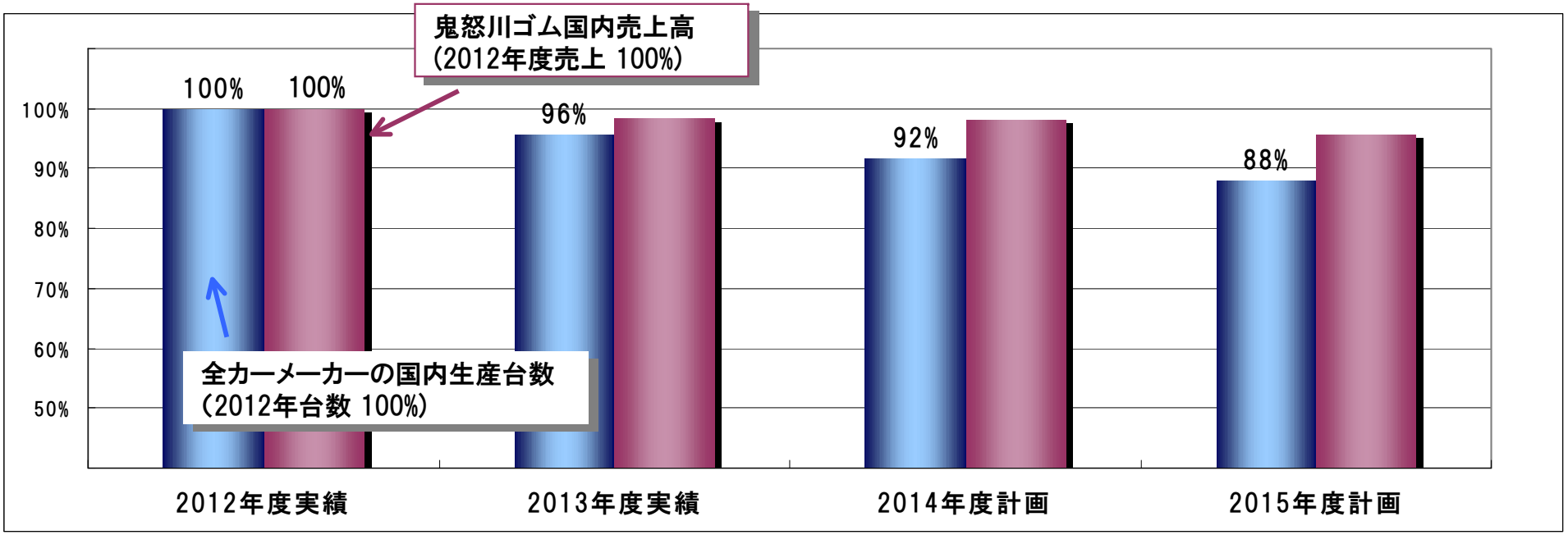
- 全カーメーカーの国内生産台数が減少する中で売上高の維持・向上を図る

拡販方策

・既存顧客のシェア拡大（車体シール・防振・ホース部品）

・新規カーメーカーへの参入（車体シール・ホース部品）

・国内主要カーメーカーの増強が続く九州地区での拡大、参入（車体シール・防振・ホース部品）



※参照：マークラインズ　地域・国別 予測レポート（2013年4月掲載）

KINUGAWA

技術開発力/商品戦略 – 競争力No.1を目指す

商品戦略	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
Design to Cost ※対2011年比	開発効率向上の取組み 15%		20%	達成状況 30%	
Technical Innovation ※対EPDM材	軽量化比率 20%		30%	40%	
Material Challenge ※対2011年比	小型化比率 5%		8%	15%	
LCC＆Localization	樹脂化提案採用比率 100%			ALL樹脂化	
総原価低減活動 ※前車種対比	LCC比率 30%以上＆最適化			ALL現地化/最適化	

技術開発力

- 設計品質向上
- 商品魅力／競争力
- 感性品質

シール戦略の具現化 ～開きモノを科学する～

- 安く・軽く・どこでも造れるシール部品
- 心地よいｶﾞﾗｽ昇降音
- 圧倒的な遮音感

KINUGAWA

技術開発力 – 新商品拡大（14年度以降）

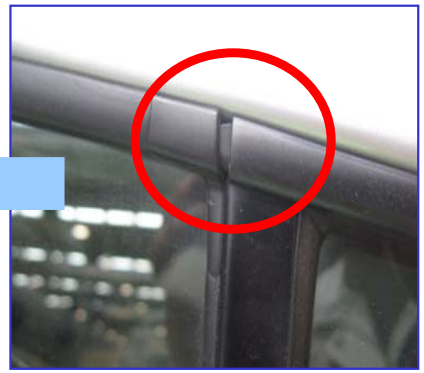
■ 欧米メーカーを中心に樹脂による一体グラスランを開発完了する

PTN W/S一体グラスランの開発

※PTN = パーティションの略称。分割ガラスとドアをシールさせる部品
※W/S = ウェザーストリップの略称。ガラス昇降時の案内,振動吸収,気密性を保つためのシール部品

【開発品】

【従来構造】



＜PTN一体化による効果＞

1)外観性向上、風音低減、水密性向上

2)モジュール化によるトータルコストの削減

＋

＜ALL樹脂化による効果＞

1)軽量化

2)ﾘｻｲｸﾙ性向上

3)外観性向上

一体化での部品供給と樹脂化を兼ね備えた車体シールの新商品ラインナップを拡大中

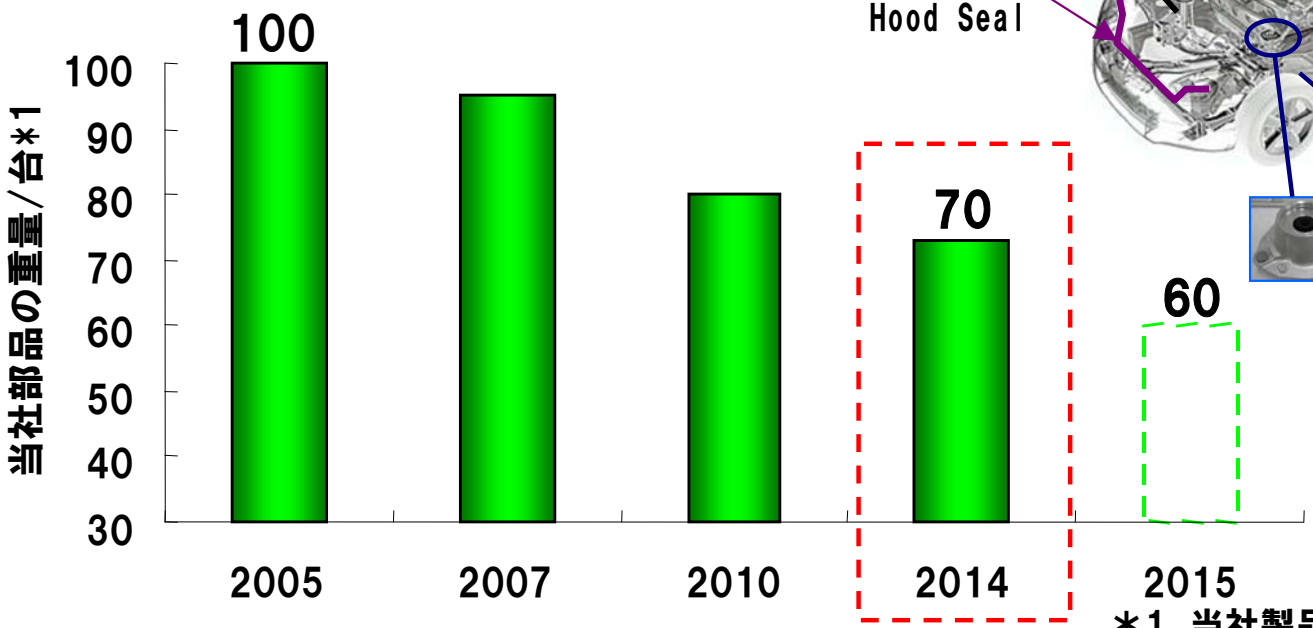
KINUGAWA

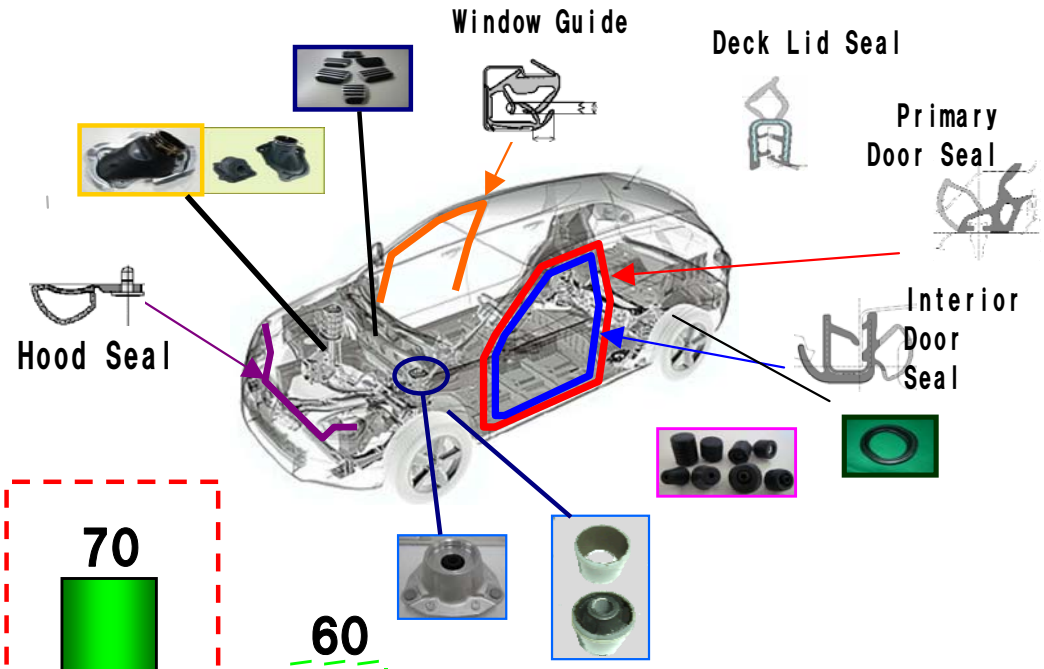
技術開発力 – 環境に優しい軽量化技術の拡大

■ 樹脂化と製品開発（小型化）の推進により、2005年より約30%の軽量化（当社比)を達成、部品の軽量化促進で自動車のエネルギー効率UPに貢献する

部品の軽量化

- 素材の軽量化(ゴムから軽量樹脂への変換)
- 部品の小型化（徹底的な必要部分の追求）





＊1　当社製品2005年重量を100としたときの比

更なる軽量化に向け機能部品の樹脂化、小型化を推進

KINUGAWA

商品戦略 – 共用プラットフォーム受注活動

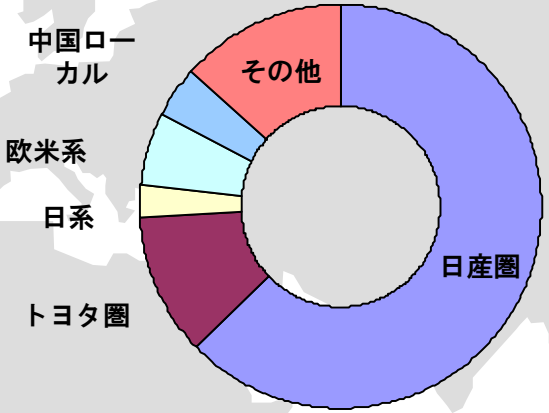
■ 主要顧客のコモン・モジュール・ファミリー適用のプラットフォーム部品を一括受注することより売上を拡大する

頭出し生産拠点の受注はすでに確保 ⇒ コモン・ファミリー全体の受注を目指す

商品戦略 – 新規顧客先への拡大

■ 車体シール部品に加えて、ホース、型物・防振部品を含めた軽量化遮音性能などの顧客ニーズに基づく技術提案を通じて、グローバル新規顧客の獲得や既存顧客の売上拡大を目指す

重点カーメーカーへの拡販



15年メーカー別シェア予測

○13年度、◌14年度以降

カーメーカ	車体シール	防振	一般型物	ホース
日系A社	○	◌	○	○
日系B社	○	○	○	○
欧米系A社	○	◌	◌	◌
欧米系B社	○	◌	◌	◌
欧米系C社	○	◌	◌	◌
中国民族系A社	○	◌	◌	◌

生産地域

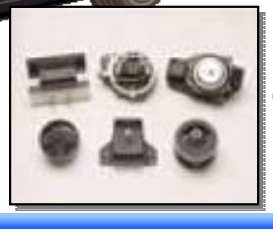
車体シール部品

中国・メキシコ
ロシア・ブラジル他

ホース部品

中国・メキシコ
インド・タイ

型物・防振部品



中国・台湾・メキシコ・タイ

KINUGAWA

配当

① 期末配当は以下を予定しています
2015年3月期予想；第2四半期末 5円、期末 5円、合計10円

② 株主還元指標
DOE；株主資本配当率(*) を2～3%とし、
今後も会社業績に応じた適切な株主還元を継続致します

(*)=配当総額÷株主資本

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度見通し
当期純利益（百万円）	2,977	4,467	5,300	3,975	4,694	5,000
1株当たり当期純利益（円）	44.35	66.56	79.16	59.13	69.83	74.38
1株当たり配当金（円）	4.00	5.00	6.00	8.00	9.00	10.00
DOE；株主資本配当率	2.5	2.3	2.0	2.2	2.3	-

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　経営企画室

電話：043-259-3111（代表）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL：http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/

KINUGAWA